

ICT分野における技術戦略検討会（第9回）議事要旨

1 日時 平成30年7月17日（火）13:00～15:00

2 場所 総務省共用10階会議室（10階）

3 出席者

（1）構成員（敬称略）

長谷川座長、中尾座長代理、江村構成員、澤谷構成員、関谷構成員、田中構成員、眞野構成員、宇佐見構成員代理

（2）ゲストスピーカー

牧野 株式会社東京海上研究所 主席研究員

（3）総務省

今林国際戦略局長、椿国際戦略局参事官、布施田技術政策課長、山碕国際政策課長、中溝通信規格課長、田沼研究推進室長、杵浦技術政策課統括補佐

4 議事要旨

情報通信技術分野における研究開発の推進方策について、事務局より参考資料9-1、9-2に基づき説明が行われた。

その後、牧野氏より資料9-1に基づき、眞野構成員より資料9-2に基づき説明が行われた。その後、意見交換が行われた。

主な意見は以下のとおり。

【イノベーションと技術的特異点】

- やる気のある人は内発的動機で動くため、外からの報酬にはあまり意味がないだろう。やる気のある人に対し制約のない環境を与え、その人の行動を認めることや、やる気を持ち成功した人の事例を紹介することが大事。
- ホラクラシーの導入は、従来型の日本企業では非常に難しいのではないか。
- 先を見据えて使命感を持ち、大きなビジョンを描くためには、その物事に対しある程度の状況を理解することが必要。
- 何にでも興味を持つ子供が、好きなことを好きなように取り組める環境を作らない限り、ビジョンを持つ人は育たないと思う。
- ホラクラシーを導入した場合、評価の仕方が難しい。

- 本当にイノベティブな人は会社の評価を気にしない。
- ホラクラシー的な職場・働き方を望んでいない人も多く、ホラクラシーに向いている人・職場とそうでない人・職場がある。
- Job description を明確化した雇用が重要。
- やりたい人の情熱を拾い上げていく制度や仕組みが必要。
- やる気のある人を発掘することは難しいが、やる気のある人を潰さないようにする制度は作れるのではないか。
- ホラクラシーを考える際、メンター的にケアする意味での上司のような存在は必要。
- シリコンバレーに向かうのではなく、シリコンバレーにあるもので使えるものは使っていくという発想に変わってきている。
- 評価そのものは必要だが、企業が個人を正確に評価するのは難しく、アバウトなものであるという認識が必要。

【国際標準化とテストベッド】

- テストベッドをプロダクションとして、商用利用に用いても良いのではないか。
- テストベッドの利用方法は変わり始めている。テストベッドとは何か、という点を改めて整理した方が良いのではないか。
- テストベッドを広く捉えて、実世界に近い実験環境とし、大学や企業の枠組みを超えた検証の場とすることで、イノベーションが起ころやすくなるのではないか。